

2019 年度入試の志望動向 前号のつづき

9月に実施された、第1回ベネッセ駿台マーク模試のデータから見る2019年度入試の志望動向概況と大学別の志望動向分析が、ベネッセコーポレーションから発表されましたので、報告します。

首都圏 国公立大&私立大 志望動向概況一覧 その2

* 国公立大の出願目安は「B」判定値に、私立大の出願目安は「C」判定値に設定。

* 第1回ベネッセ・駿台マーク模試のデータに基づく分析

<横浜市立大> <前>国際商B判:A58、B60、データサB判:58、国際教養B判:A59、B61
理B判:ABとも59、医-医B判:70、医-看護B判:58

<後>データサB判:60 国際教養以外の学部で前年よりも多くの志望者が集まっている。

<宇都宮大> <前>教育B判:52、国際B判:53、地域デザB判:52、工B判:53、農B判:54

<後>地域デザB判:55、工B判:56、農B判:56 工は募集単位が1つに括られたため、志望者が減少している。が、B判定前後は前年から大きく変わらない。国際教養以外の学部で前年よりも多くの志望者が集まっている。

<群馬大><前>社会情報B判:53、教育B判:52、理工B判:58、医B判:68

<後>社会情報B判:56、教育B判:55、理工B判:55、医B判:56 16年度入試以降、実質倍率の上昇が続く社会情報が、志望者数対前年比119と今回の動向でも人気。B判定前後の偏差値帯でも志望者数増加。

<高崎経済大> <前>地域政策(5教科)B判:53、地域政策(3教科)B判:56、経済B判:55

<中>経済B判:59 <後>地域政策B判:58 地域政策は、5教科型が対前年志望者数103、3教科型は96だが、B判定前後で志望者数が増加しているのは3教科型。

ここから私大です。 *私立大の出願目安は「C」判定値に設定。

<早稲田大> 文C判:68、文化構想C判:68、法C判:69、政治経済C判:70、商C判:69、教育C判:65
社会科学C判:69、人間科学C判:63、国際教養C判:69、基幹理工C判63、創造理工C判:62

先進理工C判:64、スポーツC判:63

昨年度の実質倍率は上昇(国際教養、基幹理工、創造理工、先進理工以外)。志望者は減っているが、減少しているのはC判定値未満の層。競争は緩和されない。

<慶応大> 文C判:69、法C判:71、総合政策C判:70、経済C判:70、商C判:68、理工C判:63

環境情報C判:63、医C判:69、薬C判64、看護医療C判:60

商・薬・看護医療が志望者数対前年比90未満。環境情報は106。総合政策はC判定値を上回る偏差値帯で志望者が若干減少。環境情報はC判定値付近で志望者が若干増加。

<上智大> 文C判:65、神C判:54、外国語C判:65、法C判:67、経済C判:65、総合グロC判:65

総合人間C判:64、国際教養C判:67、理工C判61

神学部以外、志望者数対前年比100未満、文、総合グローバル、国際教養では90を下回る。18年度入試で難化した総合グローバルでは、C判定値付近で志望者数が減少。18年度難化の理工は大きな変化なし。

<東京理科大> 経営C判:60、理C判:61、理二C判:50、工C判:60、理工C判:59、基礎工C判:58
薬C判61 工と薬で志望者数対前年比減。工・情報工はB方式、グローバル方式でC判定値より高い偏差値帯で志望者数が若干増加。

<明治大> 文C判:64、法C判:65、政治経済C判:65、経営C判:65、商C判:59、情報コミュC判:65
国際日本C判:58、総合数理C判:58、理工C判:59、農C判:59

志望者数対前年比90を下回る学部が目立つが、数理総合のみ対前年比100。ネットワーク学科の志望者C判定値未満の層で増。文心理C判定値以上の層で志望者数増加。

<青山学院大> 文C判:63、総合文化C判:64、法C判:63、国際政経C判:65、経済C判:61

経営C判:62、社会情報C判:60、コミュC判:60、教育人間C判:65、地球社会C判:61、理工C判:57
18年度入試で難化した法、経営、C判定値未満での志望者数減少が顕著。

<立教大> 文C判:63、現代心理C判:63、法C判:65、経済C判:64、経営C判:65、社会C判65

観光C判:64、コミュ二C判:60、異文化コC判:67、理C判:59

現代心理は前年並。18年度入試で難化した観光は、志望者数対前年比93。新設のセンター利用入試の6科目型は、3、4科目型に比べて志望倍率は低い。

<中央大> 文C判:60、法C判:66、総合政策C判:64、経済C判:61、商C判61、国際経営C判:62

国際情報C判:62、理工C判:57

文系学部のC判定値は高い割に、法>総合政策>国際経営、国際情報>経済、商>文。文は18年度入試で難化。C判定値未満の層で志望者減少が著しい。法は偏差値60以下の志望者数が減少。

<法政大> 文C判:61、法C判:62、経済C判:61、経営C判:62、社会C判:59、現代福祉C判:59

国際文化C判:64、人間環境C判:60、情報科学C判:55、キャリアC判:60、グローバルC判:66

デザインC判:58、理工C判:55、スポーツC判:60、生命科学C判:56

文系学部は現代福祉を除き、志望者数対前年比95以下。情報科学は志望者対前年比105と増加傾向C判定値より高い偏差値帯で志望者数増加。18年度入試で軟化したキャリアは、C判定値より低い層で志望者数減少、一方C判定値より高い層ではやや増加。

<学習院大> 文C判:61、法C判:61、経済C判:60、国際社会C判:62、理C判:56

文・理ともC判定値以上の層で志望者がやや増加。

<成城大> 文芸C判:56、法C判:57、経済C判:57、社会イノC判:56

文芸・社会イノでC判定値以上の層で志望者数が増加。

<成蹊大> 文C判:59、法C判:58、経済C判:60、理工C判:53

文C判定値以上の層で志望者数が若干増加。理工は志望者数増加しているが、主にC判定値未満の層。

<明治学院大> 文C判:56、心理C判:58、法C判:56、経済C判:56、社会C判:55、国際C判:61

心理:志望者の層が動き、C判定値未満で減少、C判定値以上で増加。経済:志望者数は減少しているが、主にC判定値未満の層。

<獨協大> 外国語C判:58、法C判:52、経済C判:52、国際教養C判:59

16年度から18年度にかけてほぼすべての学部で実質倍率が上昇。外国語:C判定値よりも高い偏差値帯で志望者数が増加。偏差値50前半以下では志望者が広く減少。

<日本女子大> 文C判:58、人間社会C判:56、理C判:56、家政C判:61

家政は志望者数対前年比81と減少がみられるが、C判定値未満の層が減少、難易かわらない。→裏面へ続く

＜国学院大＞文C判：57、神道文化C判：53、神道文AC判：43、法C判：56、経済C判：55
人間開発C判：56 16年度から18年度にかけてほぼすべての学部で実質倍率が上昇。
文：前年度とほぼ同様の志望者分布となっている。

＜武蔵大＞ 人文C判：59、経済C判：60、社会C判：60
16年度から18年度にかけてほぼすべての学部で実質倍率が上昇。人文：C判定値よりも高い偏差値帯で志望者が増加している。

＜津田塾大＞ 学芸/多文化・国際C判：59、学芸/英語英文C判：62、学芸/国際関係C判：59
学芸/数学C判：55、学芸/情報科学C判：55、総合政策C判：62
19年度新設となる学芸（多文化・国際協力）では、既存学科並みに志望者が集まっている。
国際関係は19年度募集人員が45名減少する。前年並の志望状況のため、実質倍率が高まるか。

＜東京女子大＞ 現代教養：国際/国際間C判：60、国際/経済学C判：58、国際/社会学C判：60
国際/コミュC判：60、国際英語C判：60
18年度に新設した国際・コミュニティ構想は志望者数対前年比109と増加。

＜日本大＞ 法C判：56、法二C判：46、経済C判：55、商C判：55、国際関係C判：52、文理C判：55
危機管理C判：53、工C判：47、生産工C判：47、理工C判：53、医C判：63 歯C判：54
松戸歯C判：50、薬C判：55、スポーツC判：48、生物資源C判：54、芸術C判：50
全体として志望者数対前年比70台が多く、大幅に減少している。危機管理学部のみ、志望者数対前年比125と大きく増加。

法、経済：ともに偏差値60以下のボリュームゾーンで大幅に志願者が減少している。ほとんどの学部でも同様の傾向がみられる。

理工：文系学部ほど減少幅は大きくないが、ボリュームゾーンで志望者が減少。
生物資源：ほぼ全偏差値帯で志望者数が減少している。

＜東洋大＞ 文C判：55、文イブC判：46、法C判：53、法イブC判：46、経済C判：53、経済イブC判：45
経営C判：54、経営イブC判：47、社会C判：54、社会イブC判：44、国際観光C判：57、国際C判：54
国際イブC判：45、総合情報C判：48、情報連携C判：49 理工C判：48、生命科学C判：51
食環境科C判：51、ライフテC判：48
4年連続で志願者数が増加している。今回の動向では、理系を中心に志望者数の増加がみられる。

一般、センターとも偏差値50後半以上で志望者数増加、偏差値50前半以下で志望者数減少。
法、経済、社会、国際観光：C判定値よりも高い層で志望者が増加し、C判定値よりも低い偏差値帯で志望者がやや減少している。経済では、偏差値50以上の志望者においては「日東駒専」群よりも成蹊大や明治学院大に近い志望者分布。理工：C判定値以上の偏差値帯で志望者数が増加している。

＜駒沢大＞ 文C判：55、仏教C判：45、法C判：53、法BC判：45、経済C判：53、経営C判：54
グローバC判：54、医療健康C判：53
経済、医療健康以外の学部で志望者数対前年比100を上回っている。

文：C判定値以上の偏差値帯で志望者数が増加。法・経済・経営・グローバルでも同様。

＜専修大＞ 文C判：53、法C判：54、経済C判：53、経営C判：54、商C判：52、ネットワークC判：52
人間科学C判：56 前期全学部統一入試で志望者数の大幅な増加がみられる。文：C判定値以上の偏差値帯で志望者が増加している。ネットワーク：C判定値前後で志望者が増加している。

＜大東文化大学＞ 文C判：46、外国語C判：45、法C判：46、経済C判：46、経営C判：48、社会C判：46
国際関係C判：47、スポーツC判：46 全学部で志望者が増加。

＜亜細亜大＞ 法C判：46、経済C判：46、経営C判：46、国際関係C判：49、都市創造C判：44
全学部で志望者が増加。

＜国士舘大＞ 文C判：51、21世紀C判：52、法C判：47、政経C判：51、経営C判：50、理工C判：49
体育C判：47 体育を除き志望者が増加。

＜東海大＞ 文C判：51、文化社会C判：47、法C判：48、政治経済C判：49、経営C判：44、観光C判：52
国際文化C判：42、教養C判：45、理C判：47、工C判：45、情報理工C判：45、情報通信C判：45
基盤工C判：42、医C判：62、体育C判：51、健康C判：50、農C判：49、海洋C判：47、生物C判：51
18年度入試において文系学部を中心に実質倍率が上昇。今年度も人気、昨年までの傾向が継続。

＜帝京大＞ 文C判：49、外国語C判：44、法C判：44、経済C判：41、教育C判：52、理工C判：46
医C判：61、薬C判：54、医療技術C判：51、福岡医療C判：48
文系学部でC判定値よりも高い偏差値帯の志望者が大きく増加。

＜大妻女子大＞ 文C判：51、比較文化C判：48、社会情報C判：47、人間関係C判：48、家政C判：53
社会情報は志望者対前年比112と増加。家政は志望者対前年比90と減少。

首都圏私大家政学部は志望者数減少の傾向がみられるが、C判定値よりも低い志望者数の減少が多いため、難易への影響はそれほどないと考えられる。

＜共立女子大＞ 文芸C判：49、国際C判：50、看護C判：54、家政C判：52
家政、看護は志望者対前年比88と減少。

＜実践女子大＞ 文C判：47、人間社会C判：51、生活科学C判：50
18年度入試で全学部志願者数が増加したが、今回の模試動向でも文・人間社会で志望者が大幅に増加。

＜工学院大＞ 社会C判：51、工C判：51、建築C判：53、先進工C判：52
情報・工・先進工で志望者数対前年比120を超えて志望者が集まっている。

＜芝浦工大＞ 工C判：55、シス理工C判：55、デザインC判：55、建築C判：56
18年度実質倍率を上げた。今年度も同様の志望動向。

＜東京電機大＞工C判：52、工二C判：44、理工C判：50、未来科学C判：52、システムC判：51
理工・未来科学・システムで志望者数対前年比111～113と増加。

＜東京都市大＞ 都市生活C判：48、人間科学C判：48、メディアC判：49、工C判：51、知識工C判：52
環境C判：51 メディア・工・環境で志望者増加。

＜千葉工大＞ 社会シスC判：44、情報科学C判：51、工C判：49、創造工C判：47、先進工C判：50
18年度は落ち着いた入試だったが、今回の動向では志望者が増加。

＜文教大＞ 文C判：51、経営C判：48、教育C判：59、国際C判：51、人間科学C判：52、情報C判：47
健康栄養C判：51 経営：C判定値前後で広く志望者増。
教育：志望者数対前年比97だが、C判定値より上で若干の増加。

＜東京農大＞ 国際食糧C判：54、地環環境C判：53、農C判：55、生物産業C判：51、応用生物C判：58
生命科学C判：56 昨年度実質倍率が減少した学部が多い東京農大は、志望者が引き続き1割程度減少。国際食糧はC判定値未満の層で志望者が減少しているため、難易への影響は小さいと考えられる。